

# 彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, October, 2004

課長 関 勉 T. Seki                      幹事 佐藤裕久 H. Sato  
幹事 松本敏一 T. Matsumoto          幹事 江崎裕介 Y. Ezaki

## 10月の状況 (佐藤)

C/2004 R2 (ASAS)

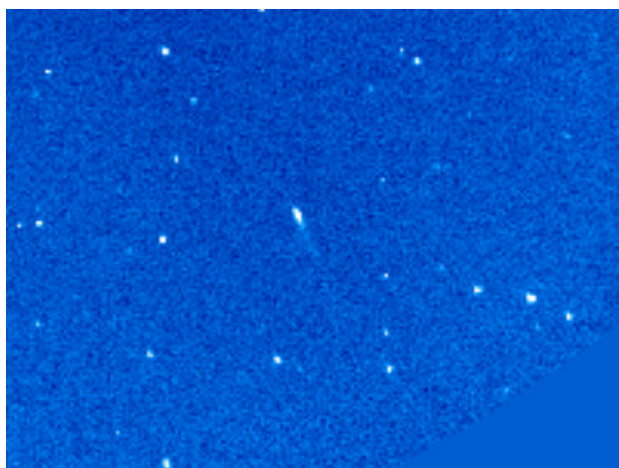
C/2004 R2 は 10月 5日 10時 21分 UT、SOHO LASC0-C3 コロナグラフに入ってきた。短い尾が見え光度は 6.5~7 等であった(写真 a)。

10月 7日から 8日、近日点を通過するところを LASC0-C2 コロナグラフで見ることができた。8日に SOHO Hunter の Mike Boschat が C2 の画像からアンチ・テイルと画像の右側に断片があると報告している。断片について明確ではないが右側がいくらか拡散したのが見え、彗星の頭部の先はアンチ・テイルのように細く延びていた(写真 b)。その後 10月 8日 3時 42分 UT、再び LASC0-C3 コロナグラフの視野に戻った。しかし微かな尾は見えていたが光度はかなり落ちていた。そして 10月 10日 3時 42分 UT を最後に LASC0-C3 コロナグラフの視界から消えていった。

comet-obs や comets-ml によると、熊本市の小林寿郎氏やドイツの Bernd Brinkmann は、14-15日の夕方、C/2004 R2 (ASAS)を捉えるべく望遠鏡+CCDを向けたが見えなかった。小林氏によると 10等星は写っていたが彗星像は見あたらなかった。また Brinkmann も、10月 14日 17:36 UT に 50 cm f/3.7 反射 + CCD (ST-8)で、近くの GSC 321 184 (14.4)までは見えたが、彗星は確認できなかった。

小林氏の報を受けて、宇都宮市の鈴木雅之氏や上尾市の門田健一氏も CCD で狙ったが予報位置付近に集光した像は写らなかった。

筆者は門田氏が 10月 17日に撮影しメトカーフコンポジットした画像をネガティブに変え少しコントラストを上げて予報円の中を注意してみた。すると彗星が崩壊した後の散らばったような感じがした。しかし確証は得られなかった。

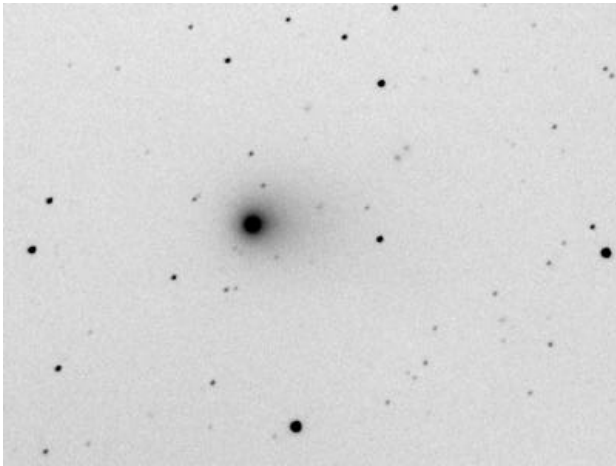


(写真 a) C/2004 R2 (ASAS) 2004,10,05  
20h 43m (UT) SOHO LASC0-C3 coronagraph  
© ESA and NASA



(写真 b) C/2004 R2 (ASAS) 2004,10,08  
02h 30m (UT) SOHO LASC0-C2 coronagraph  
© ESA and NASA

その後、関課長も何度となく確認観測を行ったが見つけれなかった。



(写真 c) C/2004 Q2 (Machholz) 2004,10,16  
2h 00.0m ~ 11.0m (JST) exp.60s x4 25cm L + CCD  
三重県上野市 田中利彦氏



(写真 d) C/2004 Q2 (Machholz) 2004,10,22  
3h 25m ~ 32m (JST) exp.420s 60cm L + TXfilm  
芸西天文台 関 勉



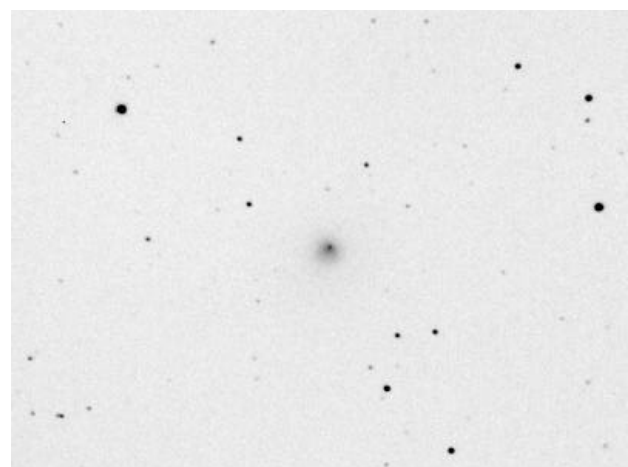
(写真 e) 78P/Gehrels 2 2004,10,14  
0h 01m ~ 10.0m (JST) exp.60s x4 25cm L + CCD  
三重県上野市 田中利彦氏



(写真 f) 78P/Gehrels 2 2004,10,22  
1h 36m ~ 57m (JST) Double exp. 60cm L + TXfilm  
芸西天文台 関 勉



(写真 g) C/2004 Q1 (Tucker) 2004,10,15  
0h 30.0m ~ 38.0m (JST) exp.120s x3 25cm L + CCD  
三重県上野市 田中利彦氏



(写真 h) 29P/Schwassmann-Wachmann 1 2004,10,14  
23h 10.0m ~ 21.0m (JST) exp.60s x6 25cm L + CCD  
三重県上野市 田中利彦氏

C/2004 Q2 (Machholz) (写真 c、d)や、78P/Gehrels 2(写真 e、f)は次第に明るさを増してきた。また C/2004 Q1 (Tucker)(写真 g)や 29P/Schwassmann-Wachmann 1(写真 h)が依然明るい。その他比較的明るい彗星は、C/2001 Q4 (NEAT)、32P/Comas Sola などであった。

2004 年 10 月に発見された他の彗星は次のとおり。

P/2004 T1 (LINEAR-NEAT)

LINEAR と NEAT サーベイのプログラムコースで発見された小惑星状の天体が他の観測者によって彗星と判明。(IAUC 8416, 2004 Oct. 6)

C/2004 T3 (Siding Spring)

Siding Spring サーベイのプログラムコースで発見された小惑星状の天体が他の観測者によって彗星と判明。(IAUC 8421, 2004 Oct. 21)

この彗星の軌道で MPC は T(近日点通過日)を 2004 年 11 月とした。しかし、二重解が存在し残差の比較から筆者や木下一男氏は 2003 年 3-4 月に T がある可能性が大きいと見ている。

C/2004 U1 (LINEAR)

LINEAR サーベイのプログラムコースで発見された小惑星状の天体が他の観測者によって彗星と判明。(IAUC 8421, 2004 Oct. 21)

次の眼視観測がある。

C/2004 Q2 (Machholz)

	2004	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Obsever	Note
Oct.	6.70	8.2	3	-	-	-	-	-	-	60x20cmR	関 勉	
	13.71	8.3	-	-	-	-	-	-	-	60x20cmR	"	淡い尾
	16.83	9.2	3	5	-	-	3/5	-	-	107x20cmL	上原貞治	
	17.74	8.8	4	6	-	-	-	-	-	16x 7cmB	宇都宮章吾	
	21.70	9.0	3	5	-	-	3/5	-	-	107x20cmL	上原貞治	
	23.74	8.2	11	5	-	-	4/5	7/10	-	10x 7cmB	佐藤裕久	

C/2004 Q1 (Tucker)

	2004	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Obsever	Note
Oct.	17.55	10.5	1.5	5	-	-	-	-	-	25x15cmB	宇都宮章吾	

C/2001 Q4 (NEAT)

	2004	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Obsever	Note
Oct.	17.47	11.2	2	1	-	-	-	-	-	25x15cmB	宇都宮章吾	

78P/Gehrels 2

	2004	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Obsever	Note
Oct.	17.74	10.8	2	3	-	-	-	-	-	25x15cmB	宇都宮章吾	
	21.70	10.5	-	-	-	-	-	-	-	60x20cmR	関 勉	

29P/Schwassmann-Wachmann 1

	2004	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Obsever	Note
Oct.	17.71	11.5	1	2	-	-	-	-	-	25x15cmB	宇都宮章吾	